

〈研究論文〉

(年譜・著作目録)

杉山忠平先生略年譜・主要著作目録

細 谷 新 治

1 はじめに

前経済資料協議会会長、杉山忠平先生が今年（1999年）3月21日、品川区の五反田神経内科病院で亡くなりました。先生は2年前の夏、ケンブリッジ大学の滞在から帰ったあと、秋口に入って体調をくずされていたようでした。そうとは知らず、私は11月に開かれる経済資料協議会主催の、「図書館員のための経済学入門講座」の講師をお願いしてしまったのです。当日は杉本俊朗先生の講義のあとコメントを少しされましたが、いかにもつらそうな様子でした。「イギリスから帰ったあと、どうも食欲がなく、つかれやすくなった。病院で診てもらったが、大したことはない、外国旅行のつかれでしょうというんですよ」と話されていたが、実はそのとき先生の病気はひそかに進行していたのです。

翌年2月に入って先生は突然呼吸困難となって倒れました。すぐ東京女子医大の附属病院に入院して気管支を切開し、人工呼吸器をつけて急場をしのいだのですが女子医大病院の検査の結果、先生の病気は筋萎縮性側索硬化症という難病であることが判明しました。それから1年余り、いくつかの病院を転々と移って壮烈な闘病生活をつづけましたが、今年3月21日ついに力つきて亡くなりました。

振り返ってみると、私が先生にはじめてお会いしたのは、1953年、一橋大学に大学院が設置され、先生が静岡大学文理学部助教授のとき内地留学生として大塚金之助先生の指導を受けるため上京して、ゼミナールにも時々参加するようになってからです。大塚先生の箱根仙石

原の山荘でも何回かお会いしています。しかし、杉山先生と親しく話をするようになったのは、私が一橋大学社会科学古典資料センター教授を定年で退職するとき、センター運営委員のひとりであった経済研究所の津田内匠教授と相談して、当時静岡大学教育学部教授であった先生を私の後任としてお迎えしてからです。

それから3年間センターの仕事でいろいろお骨折いただきました。1984年4月先生は一橋大学を停年退職されて東京経済大学へ移り、たまたま東経大が購入したローダデール伯蔵書の研究をはじめました。その成果は東経大から『ローダデール伯文庫 目録』（1990年）として刊行されています。1991年東経大を停年退職された後も特任教授、嘱託として大学に残り、ローダデール文庫の研究をつづけられ、先生が東経大の嘱託を辞されたのは95年3月です。また私は1992年5月に経済資料協議会の会長を辞任したとき、杉山先生に後任の会長の就任をお願いしたのです。こうして私は先生にご迷惑な仕事ばかり押しつけてきたようです。今になってたいへん申しわけないと思っております。

先生のお仕事は、17世紀イギリス信用理論、イギリス重商主義、イギリス古典学派、18世紀イギリス唯物論、明治初期日本経済思想史と、東西の経済思想史、社会思想史の分野に次から次へと広がり、その学問的好奇心の強さは、発病の日まで手をいれていたスミス『国富論』の全訳の草稿の完成まで衰えることがありませんでした。一方、先生はたいへん筆まめな方で、学問的著作のかたわらイギリス留学の思い出、故郷沼津の話などエッセイを楽しんで書いておりました。これらの小品は先生の3冊のエッセイ集で読むことができますが、このエッセイ集に収録されていない小文も多数あります。

今回、先生の年譜と著作目録を作成するにあたって、年譜は私、著作目録は武者小路信和君と分担して作業をはじめの計画をたてましたが、先生の蔵書と著作、そのほか資料一切が沼津の本宅に移されて当分調査ができないため、とりあえず私だけで作成することにしました。より詳細な年譜と著作目録の作成は次の機会に待ちたいと思います。また著作目録では論文、エッセイは省略しましたが、1985年3月までに発表された作品については、杉原四郎先生と武者小路君が編集

した次の文献があります。

杉原四郎・武者小路信和編：杉山忠平教授主要著作目録『一橋大学
社会科学古典資料センター年報』No.5（1985年3月）所収。

なお、杉山先生の学問的業績の評価については専門家の今後の発表
を待たなければなりません、とりあえず、未来社の雑誌『未来』に
載った次の追悼文を紹介しておきます。

『未来』No.392（1999. 5） 水田洋：弔辞，小林昇：弔辞。

『未来』No.393（1999. 6） 飯田鼎：杉山忠平教授を悼む。

『未来』No.394（1999. 7） 杉原四郎：杉山忠平兄を偲ぶ。

2 略年譜

1921（大正10）年3月7日 静岡県沼津市千本で生まれる。

1938（昭和13）年3月 静岡県立沼津中学校卒業。

——4月 東京商科大学予科入学。

1941（昭和16）年4月 同学学部進学，ドイツ文学者の吹田順助
教授のゼミに入り，ヘルダリン，ゲーテ，ニーチェの作品を読
む。

1943（昭和18）年12月 学徒動員で名古屋の第三師団第三連隊
（野戦重砲）補充隊に入営。

1944（昭和19）年9月 結核が発病したため除隊。同月東京商科
大学卒業。

1945（昭和20）年3月 芝浦工作機械株式会社に入社。勤労課学
徒係に勤務。

1945（昭和20）年9月 日本の敗戦とともに総務部へ配置換。社
内教育，労務管理，各種調査，翻訳，資料収集等に従事。

1947（昭和22）年5月 同社退職。

——5月 日本大学専門部専任講師となる。

1949（昭和24）年7月 同学専門部教授に昇任。

1950（昭和25）年6月 同学三島教養部に外向，助教授となる。

1951（昭和26）年3月 同学退職。

——4月 静岡大学文理学部助教授となる。

- 1951（昭和26）年4月 経済学史学会入会。（その他、日本18世紀学会、社会思想史学会、アダム・スミスの会、福澤諭吉協会等に入会。また英国の British Association for Japanese Studies の名誉会員になる。
- 1953（昭和28）年 内地留学生として一橋大学の太塚金之助教授の指導を受ける。
- 1954（昭和29）年1月 荒川喜美子と結婚。
- 1955（昭和30）年9月 長男明人生まれる。
- 1956（昭和31）年8月 太塚教授のすすめでブリティッシュ・カウンシルの留学生試験を受け、合格。渡英してマンチェスター大学に入学。W. スターク博士の指導の下でイギリス土地銀行論の思想史的研究をはじめめる。1年ののちロンドンに移り、ロンドン大学のゴールドスミス文庫、大英博物館等で研究調査をつづける。
- 1957（昭和32）年春 ケンブリッジ大学で開催された経済史学会に参加。
- 1958（昭和33）年6月 帰国。
- 1959（昭和34）年4月 次男英人生まれる。
- 1964（昭和39）年4月 静岡大学文理学部教授に昇任。
- 5月 1963年に刊行した『イギリス信用思想史研究』によって1964年度日本学士院賞を受賞。
- 9月～1965年9月 昭和39年度文部省在外研究員として、イギリス重商主義時代の信用思想史研究のため英国へ出張。
- 11月 経済学史学会の幹事となる。
- 1965（昭和40）年4月 静岡大学教育学部教授に配置換。
- 1968（昭和43）年2月 静岡大学評議員に選任される（1969年1月まで）。
- 1969（昭和44）年10月 沼津工業高等専門学校講師となる（1970年3月まで）。
- 1970（昭和45）年8月 ソビエト連邦へ出張。レニングラードで開催された第5回国際経済史会議に出席。The development of economic thought in modern Japan と題する報告をおこなう。そ

- のあと第13回国際歴史学会に出席する。
- 1974（昭和49）年8月～9月　　ロンドンで開催された経済思想史会議に出席するため渡英。
- 1978（昭和53）年4月　　マンチェスター大学で開催された British Association for Japanese Studies の大会に出席。Enlightenment and economic thought: The case of Fukuzawa Yukichi と題する講演をおこなう。
- 11月　　経済学史学会の代表幹事となる（1981年3月まで）。
- 1981（昭和56）年3月　　静岡大学を退職、名誉教授の称号を授与される。
- 4月　　一橋大学教授となり社会科学古典資料センターに勤務、法学部に所属し、大学院経済学研究科を担当する。
- 4月　　中野区上高田へ移転。
- 1981（昭和56）年10月　　静岡大学教育学部講師に併任（1982年3月まで）。
- 1981（昭和56）年11月　　一橋大学社会科学古典資料センター主催の第2回西洋社会科学古典資料講習会で「古典研究のケーススタディー」と題する講義をおこなう。
- 1982（昭和57）年4月　　慶應義塾大学経済学部経済研究科非常勤講師となる（1984年3月まで）。
- 6月～8月　　第8回国際経済史学会出席のためハンガリー、ドイツ民主共和国に出張。
- 1983（昭和58）年2月　　名古屋大学経済学部講師に併任。大学院経済学科担当（同年3月まで）。
- 3月～4月　　British Association for Japanese Studies の大会への参加と西洋社会科学古典資料調査のため、英国に出張。
- 4月　　中央大学商学部講師（1984年3月まで）。
- 1983（昭和58）年9月　　銀座の交詢社で開催された福澤諭吉協会主催の第31回土曜セミナーで、「福澤諭吉の経済思想」と題する講演をおこなう。
- 1984（昭和59）年3月　　一橋大学を停年退職。
- 4月　　東京経済大学経済学部教授となる。

- 4 月 早稲田大学大学院商学研究科の非常勤講師となる
(1991年3月まで)。
- 7 月 4 日 慶応義塾大学の三田演説館で開催された福沢研究
センター主催連続講演会第3回で「福沢諭吉における経済的自由」
と題する講演をおこなう。
- 7 月 5 日 喜美子夫人死亡。
- 1986** (昭和61) 年 5 月 水田洋教授、杉原四郎教授とともにイタ
リヤ、サンミニアート村で開催された国際共同プロジェクト「経
済学の制度化——ヨーロッパ、北アメリカおよび日本の大学への
その導入と受容」会議に参加、そのあとイタリア各地を廻り、フ
ランスに移動、アヴィニヨンにJ.S. ミル夫妻の墓を訪ねる。
- 1990** (平成2) 年 4 月 中京大学(名古屋市)で開催されたアダ
ム・スミスの会主催の「アダム・スミス没後200年記念名古屋国
際シンポジウム」で、大森郁夫教授(早稲田大学)、竹本洋教授
(大阪経済大学)とともに「日本におけるアダム・スミス」と題
する報告をおこなう。
- 10 月 一橋大学社会科学古典資料センター主催の第10回西洋
社会科学古典資料講習会で「古典研究(総論) アダム・スミスと
日本」と題する講義をおこなう。
- 1991** (平成3) 年 4 月 東京経済大学を定年退職。名誉教授の称
号を授与される。ローダデル伯文庫目録の編集作業のため嘱託
となる(1995年3月まで)。
- 7 月 特任教授となる(1993年3月まで)。
- 11 月 経済学史学会の名誉会員となる。
- 1992** (平成4) 年 5 月 経済資料協議会の会長に就任(1996年6
月まで)。
- 1996** (平成8) 年 夏 ケンブリッジ大学で一夏を過ごす。
- 1997** (平成9) 年 3 月 経済資料協議会主催「図書館員のための
経済学入門講座」の第1回「日本における欧米経済書特殊文庫の
導入史」(会場 一橋大学社会科学古典資料センター)に杉本俊
朗先生、細谷とともに講師となる。
- 6 月 同講座の第2回「欧米における経済学特殊文庫の形

- 成」(会場 日本大学経済学部図書館)に杉本俊朗先生、細谷とともに講師となる。
- 夏 ケンブリッジ大学で一夏を過ごす。先生の最後の外国生活となった。
- 秋 英国から帰国のあと体調をくずす。
- 10月 関西学院大学図書館で「経済学成立期の諸相——アダム・スミスとその最初期批判考——」と題する講演をおこなう。
- 11月 協議会主催講習会の第3回「経済学史・経済思想史の歴史」(場所 日本大学経済学部図書館)に杉本先生、細谷とともに講師となる。
- 1998 (平成10) 年2月 呼吸困難のため倒れ、東京女子医大の附属病院に入院。検査の結果、筋萎縮性側索硬化症と診断される。
- 1999 (平成11) 年3月21日 五反田神経内科病院で死亡。

3 主要著作目録

著書・共著書・編著

- 『イギリス信用思想史研究』 未来社。 1963年9月
- 『イギリスの国・イギリスの人』 未来社。 1967年2月
- 『理性と革命の時代に生きて——J. プリーストリ伝』 岩波書店(岩波新書)。 1974年9月
- 『わたしのマンチェスター』 未来社。 1976年4月
- 『自由貿易と保護主義』(編著) 法政大学出版局。 1985年10月
- 『窓辺から』 未来社。 1986年6月
- 『明治啓蒙期の経済思想 福沢諭吉を中心に』 法政大学出版局。 1986年9月
- 『西洋から西欧へ』(小林昇と共著) 日本経済評論社。 1987年11月
- Enlightenment and Beyond. Political Economy Comes to Japan.
 Edited by Chuhei Sugiyama and Hiroshi Mizuta. University of
 Tokyo Press. 1988年

- 『東京経済大学創立90周年記念 図書館所蔵ローダゲール伯文庫
目録』 東京経済大学創立90周年記念展示実行委員会編，杉山忠
平監修解説。東京経済大学。 1990年10月
- 『アダム・スミスを語る』〔水田洋と共編〕 ミネルヴァ書房
(Minerva 21世紀ライブラリー7)。 1993年11月
- Adam Smith : International Perspectives, Edited by Hiroshi Mizuta
and Chuhei Sugiyama. London, Macmillan Press, New York, Scho-
larly and Reference Division, St. Martin's Press. (Papers Presented
at the Nagoya Symposium to Commemorate the Bicentenary of the
Death of Adam Smith) 1993年
- Origins of Economic Thought in Modern Japan. London, Routledge.
1994年
- Lauderdale's Notes on Adam Smith's Wealth of Nations. London,
Routledge. 1996年

訳書・共訳書

- F. エルスナー 『ローザ・ルクセンブルク——その生涯と業績——』
理論社。 1995年3月
- K. マルクス 『経済学批判要綱（草案）1857—1858 第2分冊』〔高
木幸二郎監訳，豊川卓二ほかと共訳〕 大月書店。 1959年11月
- W. スターク 『知識社会学——思想史の方法——』 ミネルヴァ書房
(社会科学選書24)。 1960年5月
- 〔1971年11月『知識社会学——思想史理解の深化のために』と改題し
て未来社から再刊。〕
- W. スターク 『経済学の思想的基礎』 東洋経済新報社。〔1984年10
月，未来社から再刊〕 1961年11月
- J. チャイルド 『新交易論』 東京大学出版会（初期イギリス経済学古
典選集3 監修：アダム・スミスの会）。 1967年3月
- T.S. アシュトン 『イギリス産業革命と労働者の状態』〔松村高夫と
共訳編〕 未来社（社会科学ゼミナール55） 1972年9月
- W. スターク 『社会発展との関連における経済学史』 未来社。

- 1973年7月
S. ホランダール『アダム・スミスの経済学』〔小林昇監修 大野忠男
ほかと共訳〕東洋経済新報社。1976年5月
『アダム・スミス』〔編訳〕平凡社。1976年8月
W. スターク『宗教社会学』〔杉田泰一と共訳〕未来社。1979年6月
K. マルクス：F. エンゲルス『マルクス＝エンゲルス全集 補巻1』
〔大内兵衛・細川嘉六監訳 石井伸男ほかと共訳〕大月書店。
1980年12月
W. トマス『J. S. ミル』〔安川隆司と共訳〕雄松堂出版。1987年10月
F. エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態：19世紀のロ
ンドンとマンチェスター』上・下巻〔一條和生と共訳〕岩波書店
(岩波文庫)。1990年2月～3月
I. ホント：M. イグナティエフ『富と徳——スコットランド啓蒙に
おける経済学の形成』〔水田洋，杉山忠平監訳，坂本達哉ほか訳〕
未来社。1990年12月
O. チェックランド『明治日本とイギリス：出会い・技術移転・ネ
ットワークの形成』〔玉置紀夫と共訳〕法政大学出版局（りぶら
りあ選書）。1996年6月
E. メルツ『シュムペーターのウィーン——人と学問』〔杉山忠平監
訳，中山智香子訳〕日本経済評論社。1998年8月
アダム・スミス『国富論』本文全訳の草稿。1998年